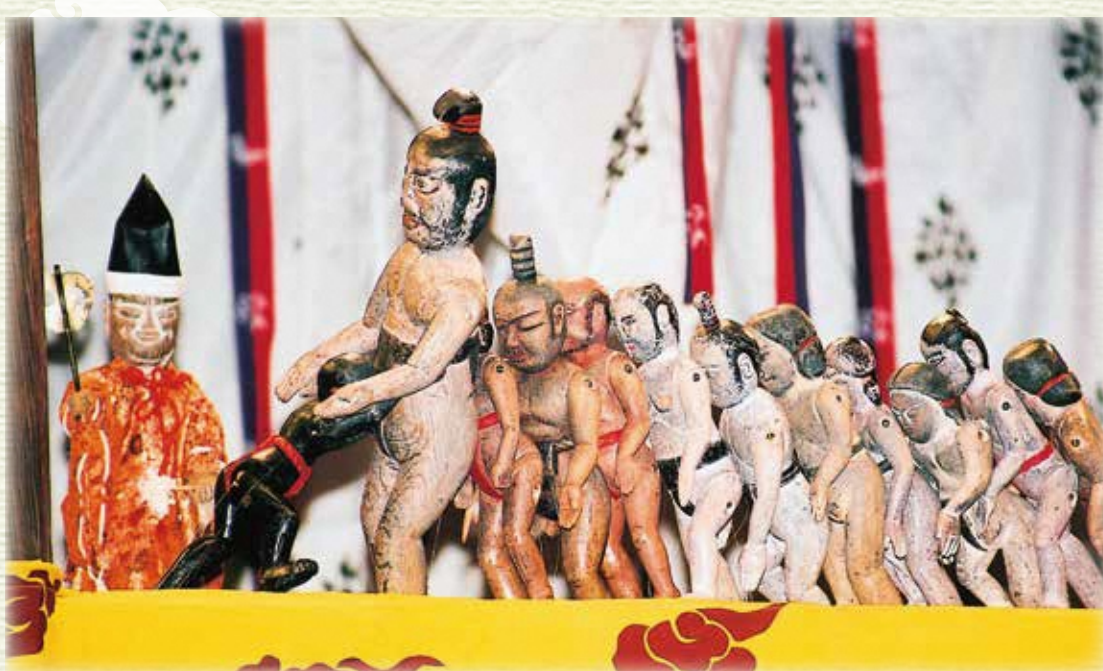


ふるさと吉富町

私たちが暮らす「吉富町」には、現在に至るまでの数々の歴史があります。そして、そこには現在の快適な生活のベースがあります。そんなふるさと吉富町について、いろいろな視点からご紹介していきます。



細男舞・神相撲(くわしおのまい・かみずもう)「押し合い相撲」
神相撲のクライマックス。勝ち残っている西方の住吉大神に対し東の全ての神々(11柱)が挑みます。



かつては何艘(なんそう)もの船で船団を組み海上での神事を執り行っていました。
(昭和63年8月)



乾衣祭(おいろかし)
細男舞・神相撲の御神像に着せる着物(神衣)を年に1回虫干しする神事。歴代中津藩主が奉納したものも残っています。

第4回

細男舞・神相撲(くわしおのまい・かみずもう)

4年に1度の一大神事

「神様が相撲をとる町よしとみ」という言葉をご存知でしょうか。町をPRするキャッチフレーズで、八幡古表神社(吉富町大字小犬丸)に伝わる神事「放生会(ほうじょうえ)」で奉納される「細男舞・神相撲」にちなんだものです。奈良時代に起源を持つこの神事は、現在は4年に1度、オリンピックキヤーの8月初めに執り行われています。リオデジャネイロオリンピックが開催される本年は神相撲キヤーでもあるのです。

起こりと伝承

細男舞・神相撲は、傀儡子(くぐつ・木製の操り人形)を使い、舞と御神歌、相撲を奉納する神事です。奈良時代、大隈・日向の隼人反乱(719年)の際、戦場で伎楽を奏したことが起源といわれ、その時亡ぼされた隼人族の霊を慰めるため、744年に宇佐神宮を中心に執り行われた豊の国の大放生会で傀儡子舞と神相撲が奉納されました。後に八幡古表神社が独自で行うようになり、現在に受け継がれています。

わが国の人形芝居の中でも中世の姿を伝える貴重なものとして、傀儡子が昭和31年4月に国の重要有形民俗文化財に、傀儡子による舞と相撲が昭和58年1月に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

8月6日(土)に放生会と細男舞・神相撲、7日(日)に乾衣祭

当日朝の祓式に始まり、遠見番所跡でいな貝を放流する放生会、傀儡子の舞(細男舞)と神相撲の神事が奉納されます。夜には、八幡古表神社の境内の神舞殿で細男舞・神相撲が演じられます。貴重な神事であるとともに、素朴でユーモラスな操りに、古来の芸能が偲ばれ、人形芝居の源流を知ろうと他に例のないものとされています。

放生会と細男舞・神相撲、乾衣祭の日程は次のとおりです。ぜひ拝観ください。

8月6日(土)

● 9時半〜11時半 祓式 八幡古表神社から「遠見番所跡」へ出発

※山国川河口(神社より200メートルほど東)

● 19時半〜21時半 仲秋祭(放生会) 細男舞・神相撲(10時半前後)船上にて

● 大祭祭典 細男舞・神相撲(20時頃から八幡古表神社境内にて)

※御参拝、拝観の皆さんが多いのは夜の部で細男舞・神相撲を拝観しやすいのも夜の部です。

8月7日(日)

- 13時〜 奉納子供相撲大会
- 18時半〜 乾衣祭祭典
- 19時〜 牛替くじ発売・奉納踊り・番所踊り
- 20時〜 奉納行事